

第3次安城市次男女共同参画プラン策定にかかる ヒアリング調査結果報告書(まとめ)

目 次

1	調査の概要	1
	(1) 関係団体等ヒアリング	1
	(2) 中学生ヒアリング	1
	(3) 事業所ヒアリング	2
2	関係団体等ヒアリング調査結果	3
	(1) 意識、教育について	4
	(2) 方針・政策決定への女性の参画について	5
	(3) ワーク・ライフ・バランスについて	5
	(4) 地域活動について	6
	(5) 農業について	6
	(6) DV、人権について	7
	(7) 行政への意見等について	8
3	中学生ヒアリング調査結果	9
	(1) 性別による行動の決めつけについて	10
	(2) 男の子らしく、女の子らしくといった考えについて	11
	(3) 自分らしく生きることのできる社会へ	13
4	事業所ヒアリング調査結果	14
	(1) ワーク・ライフ・バランスについて	15
	(2) その他の支援制度について	16
	(3) 女性の人材育成、キャリアアップについて	16
	(4) 行政に求める支援について	17

平成 24 年 9 月

安城市市民協働課

1 調査の概要

(1) 関係団体等ヒアリング

安城市で活動している市民活動団体（さんかく 21・安城構成団体）を対象に、日頃活動を行っているなかで感じている課題や、今後の市における男女共同参画推進のための施策に期待すること等について聴取し、「安城市男女共同参画プラン」見直しのための資料とすることを目的としてヒアリング調査を実施しました。

■調査団体一覧（回答があった団体のみを掲載）

団体名	ヒアリング実施日
安城国際交流友の会	平成 24 年 8 月 20 日（月）
安城市健康づくり食生活改善協議会	
安城市更生保護女性会	
安城市消費生活学校	
高齢者福祉研究会	
特定非営利活動法人 i n g	平成 24 年 9 月 3 日（月）
国際交流安城はなのき会	
新日本婦人の会安城支部	平成 24 年 8 月 9 日（木）
愛知県農村生活アドバイザー（安城地区）	
ボランティアネット北明治の会	
刈谷・知立・安城 おやこ劇場	平成 24 年 8 月 20 日（月）
特定非営利活動法人育て上げネット中部虹の会	平成 24 年 8 月 10 日（金）
グリーンそう	
農業従事者名	実施日
黒柳 二三子	平成 24 年 8 月 9 日（木）
石川 正子	平成 24 年 8 月 10 日（金）

(2) 中学生ヒアリング

安城市内の中学生を対象に、日常生活の中で感じている性差別に関する事などについて、「安城市男女共同参画プラン」の見直しのための資料とすることを目的としてシートによるヒアリング調査を実施しました。

■調査対象者数

対象	人数
平成 24 年 8 月 9 日に行われた子ども議会リハーサルに参加した 安城市内の中学生	24 人

(3) 事業所ヒアリング

安城市内の事業所を対象に、事業所内の男女共同参画の状況や、課題等について聴取し、「安城市男女共同参画プラン」見直しのための資料とすることを目的としてヒアリング調査を実施しました。

■調査対象事業所（回答があった事業所のみを掲載）

事業所名	業種	ヒアリング実施日
植村建設工業株式会社	建設業	
株式会社クサカ	建設業	
株式会社サカキバラコーポレーション	製造業	平成 24 年 9 月 3 日（月）
サン・シールド株式会社	建設業	
株式会社東海石油	卸売業、小売業	
株式会社ビレッジ開発	不動産業、物品賃貸業	
ヤスキ建設株式会社	建設業	平成 24 年 8 月 20 日（月）
植村建設工業株式会社	建設業	
大見工業 株式会社	製造業	
株式会社 ヒサダ	製造業	
株式会社 大嶽安城	卸売業、小売業	平成 24 年 9 月 3 日（月）



2 関係団体等ヒアリング調査結果

(1) 意識、教育について

子どもの頃から、男女共同参画や広く「人権」に関する教育を行う必要があるという意見が多く聴かれました。また、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割分担に基づく意識はまだ根強く残っており、男女ともに、家事能力や就労する意欲が育たなかったために、ニートや引きこもりといった問題につながってしまう事例もあるということです。

区分	意見	団体等
学校教育について	○教育現場において「隠れたカリキュラム」についての意識をさらに持って欲しい。PTA会長を女性が受けることの出来る環境づくりを。	国際交流 安城はなのき会
	○いじめやDVなど人権教育の充実をお願いしたい。(教育現場、生涯学習などを通じて) ○中高生へのデートDVの啓発などを人権の視点から伝えていく必要がある。	特定非営利活動法人 i n g
参画促進について	○女性への啓発のみならず、市民全体・市民活動としての参画が必要と考える。	国際交流 安城はなのき会
啓発について	○乳幼児の保護者、小中高生など、ライフステージの各段階で、一貫したプログラムにより人権・男女共同参画の啓発を行っていく必要があると感じる。	特定非営利活動法人 i n g
	○男女共同参画に、まだまだ偏見がある。職員の中でもまだ浸透していない。啓発が必要である。 ○団塊世代や団塊ジュニアは「女は家に」という考えで育てられてきている。まだまだ意識を崩せていない。	特定非営利活動法人 育て上げネット 中部虹の会
家事・就労など、生きる力の育成について	○働きたいけれど働けないという人や、介護をしており働いていないという人の支援を行っている。支援対象は男性が多い。	特定非営利活動法人 育て上げネット 中部虹の会
	○幼児期から、男女関わらず家事をやらせてほしい。靴ひもも結べない、ゲームしかしていないなど、学歴はあっても社会体験がない子どももいる。小学校前に家事の手伝いをすることによって、ある程度は身につくと思う。	
	○女性で働いていない人は家事手伝いが多い。家事手伝いを含めるかどうかで、ニートや引きこもりの数が違ってくる。家事手伝いの女性は経済活動ができない状態であり、親が定年した後で「結婚しろ」と言われる。	
	○家庭でのキャリア教育が不足している。親は子どもが小さい時に「働く」経験をさせていない。男も女も関係なく、全部(家事と就労)できる力は必要である。	
性教育について	○発達障害の子どもなどは性教育や異性との関係などについて指導してもらえないため、支援ができればいいと思う。	刈谷・知立・安城 おやこ劇場

(2) 方針・政策決定への女性の参画について

方針、政策決定過程への女性の参画については、目標値の達成に向けた取組みの強化を希望する意見が出されています。

区分	意見	団体等
目標の設定について	○市の職員（行政担当）で女性の占める割合を増やす。目標を数値化する。また、市の職員（保育・幼児教育）で男性の占める割合を増やす。目標を数値化する。	高齢者福祉研究会
	○各種審議会などの女性委員の登用率が30%前後で停滞している。目標を上げて更なる努力を希望する。	国際交流 安城はなのき会

(3) ワーク・ライフ・バランスについて

子育て支援を行う団体からは、家庭内、夫婦間のコミュニケーション不足（夫の子育てへの無関心など）が、様々な問題・悩みを発生させているという意見があがっています。その他、安城市の子育て支援施策を評価する意見、介護技術を男女ともに身につけることの重要性を指摘する意見がありました。

区分	意見	団体等
夫婦間の協力・理解について	○家庭の問題として、夫とわかりあえる時間がないという妻の声をよく聴く。夫が5時に仕事から帰り、家族で行動することが当たり前のような社会であったら、子育ての悩みも解決するのではと思うことがたくさんある。	刈谷・知立・安城 おやこ劇場
	○父親が「男は仕事、女は家庭」、「何をやってもいいが、俺を巻き込むな」と言っているという話を聞く。母親は違うと思っけていても言えない。コミュニケーションがとれていないと感ずることがある。	刈谷・知立・安城 おやこ劇場
子育て支援について	○保育園、学童保育の充実で女性が働きやすい環境になってきていると思う。保育園の待機児がないのはすばらしい。	高齢者福祉研究会
介護について	○介護は女性に負担がかかるから問題であると必ずしも言えない。介護が必要な親を寝かせっぱなしで、届け出をしないということは男性に多い。介護の仕方もわからない、世話の仕方もわからない息子がいて、お母さんの腰が曲がっていても上げ膳据え膳しているという家庭がある。 ○介護技術の向上は男女問わず大事である。	特定非営利活動法人 育て上げネット 中部虹の会

(4) 地域活動について

地域活動・市民活動において「男女不平等はない」とする団体がほとんどでしたが、一部では「会議で女性が意見を言いにくい」「役員選挙や運営に男女不平等な扱いがある」「女性のみがお茶くみや準備・片付けなどを担当する」という意見もありました。

区分	意見	団体等
活動組織の運営について	○男性優位の組織運営を改める必要がある。	刈谷・知立・安城 おやこ劇場
	○町内会など地域活動における方針決定の場に女性が参画できる環境づくりを。	国際交流安城 はなのき会
セクハラについて	○地域活動の中で酔っ払ったふりをしてのセクハラなどがある。	刈谷・知立・安城 おやこ劇場

(5) 農業について

「家族経営協定」の締結により、農家における家事や労働の役割分担について考えるきっかけとなり、女性農業従事者の地位向上など様々な良い効果が生まれています。しかし、一方では協定の内容が守られていない例もあり、「家族経営協定」の普及と合わせて、内容の定期的な見直しや、継続的な家庭内での話し合いが必要であるということでした。

また、農業が盛んな安城市は他市に比べてバックアップ体制も充実しているため、今後、農業分野において女性の力をさらに活かしていくこと、農業分野の男女共同参画をさらに進めていくことについて意欲的な意見が出されました。

区分	意見	氏名
家族経営協定について	○農家の場合、家族の人数が多いので、嫁姑問題をはじめ、いくらかイザコザが起こる場合がある。家族経営協定で取決めを行っておけば、各個人が頭の中でその事を思い出して、穏便におさまるように思う。	黒柳二三子さん
	○協定を結ぶ前よりも、夫が家事を手伝ってくれるようになった。お嫁さんも含め家族全体でメリハリがついた。	
	○協定に関する話を聴き、「そんな考え方もあるのか」と思う女性の方もいる。しかし家に帰り、夫に話をすると、改めて協定を結ぶ必要はないと言われる人がほとんどである。夫と妻が同じように生活できる家庭はまだ少ない。	
	○協定について話し合うだけでも男性の意識が変わる。それだけでも意味があるように思う。	
	○協定を結んだが、守れていないこともあると耳にする。しかし、家族経営協定を結ぶということは、ひとつの家族会議の場をつくるということである。協定を結んだ後、1年経ってどうだったかという話し合いをするといいと思う。	
	○農業は、嫁いだ女性がとても多くのことをやるというイメージがあると思う。どこまでやるのかというグレーゾーンを、協定を結ぶことで明確にすることができる。	

<p>家族経営協定について</p>	<p>○私たち家族が、安城市で始めて家族経営協定の調印をした。しかし、家族の協力が得られずに結べない人もいた。口約束で大丈夫とか、家族間で何をいまさら、と言われるなど、農家の主婦や女性の地位が低かったように思う。</p> <p>○農村生活アドバイザーをしていた時、家族経営協定を取り上げ、啓発のための寸劇を始め、普及に取り組んできた。</p> <p>○以前は「なあなあ」で、妻に家事や仕事の負担が多くかかっていた。家族経営協定を進めていけば女性農業従事者の地位向上にもつながると思う。</p> <p>○意識があれば、家族経営協定を取り入れてほしい。私たちの時代に、情報冊子をもらってもゴミ箱行きだったら、今の安城の女性農業従事者の地位はなかったかもしれない。みんなでいろいろやってきた結果だと思う。</p>	<p>石川政子さん</p>
<p>農業に従事する女性について</p>	<p>○女性の潜在的な力をもっと発揮していく分野に6次産業があるとされている。特産品として、今までのジャムなどに加えて女性目線のものをつくりたい。女性ならではの視点や、使いやすい製品づくりなど、強みがたくさんあると考える。</p>	<p>石川政子さん</p>
<p>農業分野の男女共同参画について</p>	<p>○男女共同参画について言えば、農業は進んでいるといえる。昔は農業の会合に行くとき全員男性だった。以前は女性が一人だったが、最近では女性もちらほら見かけるようになった。県の事務局のなかで女性がいるようになったし、地域の農協でも少しずつ女性がみえる。力のある女性はそれに見合った役職についてほしい。</p>	<p>黒柳二三子さん</p>

(6) DV、人権について

子育て支援団体や、その他当事者支援の団体において、啓発や相談、行政などの支援機関へのつなぎといった取組みが行われています。DVについては、被害者自身が被害の自覚がない場合もあること、被害者が身近な相談窓口に行きにくいこと、児童虐待などとの関連が深いことなどから、様々な段階で多様なセーフティネットをつくっておく必要がありますが、まだ体系立った体制整備ができていないため、情報発信や連携などにおいて十分な対応ができていないという例も聴かれました。

加害者支援、自立支援のためのシェルターの設置など、現在、西三河地域など近隣も含めて安城市にない取組みについては、必要性はあるものの、予算の問題や対象者が少ないこと、専門性が必要であることなどから、現時点では実施に至っていないということです。

区分	意見	団体等
<p>DV防止の啓発について</p>	<p>○いじめ、不登校の問題とDVの問題は再整理し、すべての人権侵害は同じ構造で生じているということ、を、わかりやすく伝えていく必要がある。</p> <p>○DVや児童虐待に関しては、事件などが起こった際に活動に盛り込んで話をしている。</p>	<p>特定非営利活動法人ing 新日本婦人の会 安城支部</p>
<p>加害者支援について</p>	<p>○加害者支援は、司法との綿密な連携やかなりの専門性が必要であり、危険もあることから取り組むことが難しい。</p>	<p>特定非営利活動法人ing</p>

被害者支援について	○西三河地域でのシェルターの設置に向けて調査を行うところであったが、東日本大震災の発生により頓挫している。県の支援施設に行く前段階の、被害者が不安定な時期に1～2日宿泊できるような支援施設が身近なところがあればよいと思う。	特定非営利活動法人 i n g
団体での対応・相談や連携について	○父親がたまに子どもを叩く、という人もいる。虐待までいかないが、放っておくのが不安な例もある。しかし、児童相談所に聞くとそこまでひどくないと言われたりする。	刈谷・知立・安城おやこ劇場
	○複合的な問題（就労、健康、DV等）を抱え、困難な状態に置かれているDVの被害者も多い。様々な相談機関をまわるが、その際に無神経な言葉などにより傷つくこともあるようである。ひとまず、まとまっていなくても被害者の話をすべて聴くことから始めている。	特定非営利活動法人 i n g
	○活動への参加者は広報を見て興味をもった人や口コミで知った人が多い。彼女たちはDVや虐待ということから離れている方たちがほとんどで、本当に大変な方の参加はない。辛い目にあっている方達に働きかけたいと思っているのだが、そこまで出来てない。	新日本婦人の会 安城支部
	○相談にはDVの被害者、被害者の家族もみえる。支援機関や学校などと連携を持ち、コーディネート支援もやっている。配偶者暴力相談支援センターや県の施設への連携はとれていない。	特定非営利活動法人育て上げネット 中部虹の会
情報について	○DVに関して有益な情報がほしい。	刈谷・知立・安城おやこ劇場
	○DVに関して、行政の資料があれば渡すことができる。本人がじっと耐えていることが多いので、情報を手に入れて、妻がこっそりに行くことができればいい。	特定非営利活動法人育て上げネット 中部虹の会
	○DV相談の場として、相談先の情報提供を支援してほしい。	特定非営利活動法人 i n g
外国人への支援	○東南アジアの国によっては、女性の立場が低いところがあるが、ホームステイは短期間なので、お互いが楽しく過ごすように交流している。	安城国際交流友の会
	○会での活動は楽しい交流を目的としているので、外国人女性のDVや虐待などの報告はない。今後、幅広く交流を進める中で、外国語ができ、日本や安城市のことをよく理解してくれる人がいれば相談しやすい場所になると思う。	安城国際交流友の会

（7）行政への意見等について

区分	意見	団体等
情報発信の支援について	○会員制であっても、誰でも入会できるのでチラシを置かせていただきたい。公民館にチラシが置いてあると信頼性が高い。	刈谷・知立・安城おやこ劇場
その他	○七夕親善大使に男性が選ばれたが、男女同数にしてほしい。	高齢者福祉研究会

3 中学生ヒアリング調査結果

(1) 性別による行動の決めつけについて

「男の子らしく、女の子らしく」といった、性別による決めつけは多くの中学生に経験があるようです。男の子ではたくましさや勇気などの特性が期待され、女の子では行儀や言葉づかいに関することを指摘されている場合が多くなっています。言われた際の気持ちとして、疑問を持ったり、反発を感じたりした、という意見を書き添えているものも多くみられます。

質問1 あなたは「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」など、性別で行動などを決めつけられたことがありますか。また、それはどのようなことでしたか。

男子中学生の意見
○小さいころ、泣き虫でちょっとしたことで、泣いていました。「男の子なんだから」と言われた覚えがあります。
○野球の試合に負けて、とてもくやしくて泣いていたら、チームメイトが隣に来て「男だったら泣かずにシャキッとしろ。」と言ってきました。男でもくやしいときぐらいあるし、泣くことで立ち直れると思う。
○僕は吹奏楽部に入っていて、周りから「男の子なのに吹奏楽部かよ」と言われたことがありました。僕はそれを覚悟して入ったので、何とも思いませんでしたが、今となって考えると、その批判はおかしいと思うようになりました。
○高所恐怖症で山の頂上へ行って端の方へ行けずにいたら、親にへボと言われたこと。
○ゴキブリが嫌だったことをおじいちゃんに「男なんだから怖がるな」と怒られてしまった。
○力仕事は男の子、器用な仕事は女の子で仕事をわけられてしまうのはいやだ。疲れてしまう。
○先生で女子をあてる回数が多い人がいる。
○クラスで決め事をする時に、男の子は係決めで、「女子にゆずれよ」などと言われ、やむをえなく決められてしまうことが多い。
○なぜレディースデーがあって、メンズデーがないのか。大人の考え方を直した方がいいと思う。
女子中学生の意見
○お母さんに「言葉遣いが悪い。女の子なんだから、そんな言葉は使っちゃだめ。」と言われた。
○言葉遣いで言われたことはあります。
○あぐらをかいていて、注意されたこともありました。
○虫やゴキブリなどは普通に触れる性格で、ゴキブリが出ると素手で殺してしまいます。女の子なんだから、おしとやかにとか言われました。
○アメリカに行った時、女の子なんだから、男にやらせればいいのか言われて、自分でやりたいのに、と思いました。
○言葉遣いが悪くて、すぐに怒られます。
○服装も、女の子はそんな服着ちゃダメとか態度とかも怒られます。
○言葉遣いについて、女の子ならもっと優しくなどと言われます。
○性格、女子がやんちゃだと何かと注意されてしまう。
○髪型で女子が短いと男みたいなどと言われる。気合いを入れるために短くしているのに、なぜ、文句を言われてしまうのかわからない。
○テレビで面白いことをやっていたりして、口をあけて笑っていたら、お父さんやお母さんに「女の子なんだから、笑う時に口をあけて笑うんじゃない」と言われます。笑いたい時には思いっきり笑いたいのに。

○リラックスするために、あぐらをかいていたら、「女の子なんだからもうちょっとお上品に座りなさい」と言われた。
○小さいころ、運動が大好きで常に外で遊んでいると、お母さんやお姉ちゃんに「女の子なんだからおしとやかにしなさい」と言われました。
○性格とかちょっと男っぽいことがあって、いつも男子に男子扱いされるくらいだから、こっちももうどうでもいいし、むしろ女の子らしくしろって言われるよりはこっちのが自分らしくていい。
○女の子なのになんでスカートはかないの、髪の毛短いなどはあります。別にこれでいいと思うので、気にもせず過ごしてます。
○恋愛やオシャレに興味が無いと言ったら「女の子なのに」と女子に言われた。 ○女だから料理ができるようになれと母に言われた。 ○学校の部活の壮行会で、応援団のたいこをやりたかったが、「女子はだめ」と言われてできなかった。
○小学校の時、習字の授業で「女なのに字が下手だな。」と言われたことがあります。男の子でも字が上手な子もいるし、別に気にならなかったけど、少しいやでした。

(2) 男の子らしく、女の子らしくといった考えについて

「男の子らしく、女の子らしく」という考えについて、個性やその人らしさを重視していれば良い、という意見が多くみられました。また、どうしても出てくる身体的な差は踏まえるべき、といった意見や、社会の環境は決まっているのでしようがない、といった意見も一部で見られます。女の子では、男の子に比べて「男の子らしく、女の子らしく」という考えを肯定する意見が多くみられました。

質問2 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく」といった考えをどう思いますか。

男子中学生の意見
○良いか、悪いかは時と場合によると思います。時と場合を考え、行動することが大切だと思います。例えば、公共の場で男の子が男の子らしく、普通の行動をしなければ、周りの人に迷惑をかけると思います。
○そのような差別はおかしいと思います。でも、保健係のような性別に向けた仕事の場合は区別が必要だと思います。
○モラルを守っているならば、とらわれなくても良いと思います。言葉遣いが悪いのは女子のみではなく、男子でも良くないと思うので、性別で行動などが制限されるのはよくないと思います。
○男性と女性では、身体能力が違うので、ちょっとしたルールの違いはいいと思うが、なるべく平等にすることによって、わけへだてなく生活ができると思う。
○スポーツのルールなど身体能力の差で決まっているものは、しょうがないと思います。決めつけはよくないと思います。男の子にも人形やピンク色が好きだが、女の子でもロボットや青色が好きというのものもあるはず。偏見のように決めつけてはいけないと思います。
○そういう考えではなく「自分らしく」という考えがいいと思う。女の子だからとか、男の子だからというのは、生活の中では嫌。
○人間は人それぞれ。この言葉は戦争があったときぐらいから使われていると思うけど、昔言われてたからって、今は昔じゃないし、時代は変わっていくと思います。
○自由に自分らしく生きるのはとても大事なことだと思うけど、社会はもう定まってきてしまっ

<p>いるので、とても難しい話になると思う。</p> <p>○男の人が女装していて「趣味はそれぞれだよ」と思う人もいれば、「気持ち悪い」と思う人も当然いる。</p>
<p>女子中学生の意見</p>
<p>○昔から親に言われたことだから、あまりおかしいことだとは思わない。だけど、納得はしていない。</p>
<p>○昔から言い伝えられているような、「男は泣くな」とか、「女はおしとやかに」とか、そういうことはあっていいと思う。差別だとは思わない。逆に受けついでいきたい。</p>
<p>○あまりよくないと思います。「男だから」「女だから」といっただけで職業を決めつけられるのは嫌だと思います。苦手なことやものがあるって「男なのに」「女なのに」なんてできないの、と言われてたりするのも嫌だと思います。</p>
<p>○人それぞれ考え方がちがったり、個性があるから、男の子、女の子で区別しない方がいいと思う。</p>
<p>○注意される時はイライラするけど、日本人が昔から守ってきたことや、やまとなでしこが反映しているものだと思うから、大切にしたいと思う。それに、素敵なl a d yになるためには、大事なことだと思うから、もっと注意すべきだと思っています。父や母も、私のことを想って言ってくれているので、自分のためにも、父や母のためにもなると思います。あと、友達との差をつけられるのは、そういうところだと教えられてきました。</p>
<p>○私はこのような考えはあっても良いと思うけど、無理に考えを押し付けるということはよくないと思います。なぜなら、男の子が男の子らしくしないで、とても女々しかったから、家族や様々な会社などをまとめるような人が、たよりがいがなく、なりたたなくなると思うからです。</p>
<p>○人それぞれ性格とかも全然変わってくるし、女だからとかで決められるのはいやだ。男が今までやってきたことだって女もできる。</p>
<p>○今まではあまり気にしたことはありませんでした。しかし、今回のアンケートをとおして、おかしいことだなと思いました。人それぞれ違うところがあり、それを認めないのは、社会の広がりやを止めてしまう原因だと思います。人の考えによって社会が広がるのであれば、それを止めてしまうのはもったいないです。</p>
<p>○男性は男性、女性は女性に向いていることや職業があると思います。言葉遣いや行動は、人それぞれですし、全員がその場にあった行動を取ればいいという話です。自分に合っていることをすればいいだけのことなので、そのような考えはあってないようなものだと思います。</p>
<p>○「女の子らしく。」と言われるのは、女の子だけで楽しく過ごしている時はいやだと思いますが、女の子らしくすることで印象が良くなったり、得をすることもたくさんあります。なので、お母さんの教育の内かだと思います。</p>
<p>○このような考え方はあってもいいものだと私は考えます。男の子だからこう、女の子だからこうというのがあって当り前のことに思います。ですが、男の子でもおままごとが好きとか、女の子だけど、○○レンジャーが好きというのも、いいと思います。“決めつける”というのだけ少なくなれば、みんな納得できる気がします。</p>
<p>○男子も女子も同じように扱ってほしい。</p>
<p>○生物学的にオスとメスがあっても社会的に男も女も存在しないと思う。みんな一人の人間だと思う。男だって家事はするし、女だって働きに出る。当然。</p>

(3) 自分らしく生きることのできる社会へ

自分らしく生きることができる社会に期待することでは、「男女平等」「個性の尊重」などの意見が多くみられます。

質問3 男性も女性も、自分らしく生きることができるようにするために、どのような社会になってもraitたいですか。

男子中学生の意見
○一人一人が、自分は自由で当り前のことが当たり前に行動できるような社会になってほしいです。
○周りで男女差別のないイベントやニュースがあれば、家庭でも差別が無くなると思います。
○性別など関係なく、個性や才能を生かせる社会になってほしいです。
○ある程度で良いので、男女が平等になれば良い。
○お互いが本当に尊敬し合えるような社会。平等で、どちらも必要不可欠な社会になってほしいです。
○給料も男女にかかわらず平等にして、身分（社長、部長）などを決めるのも、男女平等にする。
○人がそれぞれ持っている感情を捨てて、共有の感情を持たせる。
女子中学生の意見
○人の価値観を尊重する社会。
○仕事などを決める時に、男女の差をつけずに平等に決められる社会になってもraitたい。性別によって、なりたい仕事に限られるのはよくないと思う。
○お互いに「男なのに」「女なのに」ということがあっても言わないべきだと思います。なので、相手のやりたい事や思っていることを尊重できるような社会にすべきだと思います。
○それぞれの個性を考え、理解し合える社会。
○男性は男性として身に付けておくこと、女性は女性として身に付けておくことの最低ラインを決めて学校などで、教育していけば良いと思います。それ以外の事で自由で良いと思います。
○スポーツとかで男子はやっていて、女子があまりやれない、やりたくても部活動に入れないスポーツとかあるけど、女の子でもやりたいものはあるから、そういうのをなくしてほしい。
○男性だけ、女性だけというものを作らずにしてほしいです。しかしそれによって問題が起こるのもいやです。
○各自好きなことをやり、まわりがそれを認めることができれば良いかと思います。
○就職する時など、“今後の生活に関わること”では、男女で差別されることはいやですが、現在、電車で女性専用車が運転されていたり、女性にとって住みやすいと思います。
○“決めつけ”がなくなれば良いと思います。
○男性も女性も働いていける世の中。皆が男性の方が立場が上だとか、女性の方が弱いという考え方をしないで、男も女も平等なんだと思えるような社会になってほしいです。
○何事にも男女ですべて同じ条件を与えられる社会になってほしい。（就職等の場面で）

4 事業所ヒアリング調査結果

(1) ワーク・ライフ・バランスについて

育児休業を取得する女性はみられますが、男性の取得についての実績はみられませんでした。育児休業を取得する際には、業務の代替要員の確保や、復帰に向けた配慮など、現場で苦慮するところも多いようです。介護休業についても取得実績はみられませんでした。

区分	意見	事業所名
女性の育児休業の取得について	○育児休業は平成23年度に1人利用しており、過去では4人くらいの取得実績がある。育児休業を取得した場合の業務の代替は既存社員で補うか、短期のアルバイト、派遣社員等で対応する。育児休業を取得した社員が復帰する際に戻りやすいように配慮している。	(株)サカキバラ コーポレーション
	○休業制度を利用する人はいない。今後は必要があれば検討する。小さな会社なので、一人抜けると業務の進具合が違ってくるので、現実として取得は難しい。	ヤスキ建設 株式会社
	○女性で育児休業をとられた方は2名、計2回とっている。結婚したら辞める方が多い。女性が育休を取った場合は、派遣やアルバイトを雇って、その分を埋めているのが現状である。	株式会社 大嶽安城
男性の育児休暇の取得について	○男性の育児休暇は、今のところ意向はない。具体的な取得の場合に、どのような形態、期間となるか今後検討する必要がある。	(株)サカキバラ コーポレーション
	○育児休暇に関して、男性の場合は前例がない。制度としてはあるが、難しい部分がある。事実問題、大企業なら可能性もあるが中小企業の場合、実施は難しいと思う。	株式会社 大嶽安城
介護休業・休暇について	○介護休暇として年間5日間認められると聞いたが、実際の介護は短期間で解決できる問題ではない。	ヤスキ建設 株式会社
	○会社が休業を認めたとしても、自分が休むことによって周りのメンバーに負担がかかってくることは承知しているので、本当に休業制度を利用できるかは疑問である。大手企業と違って、交代できる人もいない。社会全体がこういった経済の中で、余分に人を置くことはできない。	ヤスキ建設 株式会社
	○以前、親の介護で短期間休んだ社員はいたが、今のところ介護が原因で退職するといった事例はない。制度の案内は行っているので今後対応していく必要があるかもしれない。	(株)サカキバラ コーポレーション
意識啓発について	○ワーク・ライフ・バランスの資料があれば、配布している。従業員はほとんど男性なので、育児等に意識が薄い。	ヤスキ建設 株式会社
	○男性に育児・介護における理解は、立場の違いがある為、まず難しいかと思う。子どもを産んだ事の無い者との違い、息子と嫁の立場の違いと、あまりに大きく、違いを理解する事もされる事も難しい。思いやる事はできるかと思う。	ヤスキ建設 株式会社
有給の取得について	○繁忙期などで残業、休日出勤などが生じる時は、社員に代休の取得を促している。	(株)サカキバラ コーポレーション
	○営業の男性は有給休暇の取得が難しい。事務の女性は取得できており、男女での差がある。	株式会社 大嶽安城

(2) その他の支援制度について

女性の再雇用は、積極的に行う事業所がみられます。中小企業において、出産・子育て後に再チャレンジする女性の受け入れ体制が柔軟であることがうかがえます。

区分	意見	事業所名
女性の再雇用について	○いったん仕事をやめた社員を再雇用することもある。業務をよく知っていることから、とても助かっている。社員の希望があれば、正社員としての雇用も進めていくなど柔軟に対応している。	(株)サカキバラ コーポレーション
	○結婚や出産で退職された方には、少し時間が経って、落ち着いたらまた声をかけて働いてもらっている。復帰・再就職しやすい環境である。	株式会社 大嶽安城
短時間勤務について	○小さい子どものいる社員にとって、短時間勤務制度などはうれしいようである。	(株)サカキバラ コーポレーション

(3) 女性の人材育成、キャリアアップについて

女性の人材育成やキャリアアップについては、女性自身の意識改革を求める意見が出されています。また、男性に比べて女性は家庭と仕事との両立において、家庭の比重が大きくなりがちであるため、女性のキャリアアップに向けては、女性自身の意識と会社としての方針、子育て・介護の支援制度など、様々な条件を整備していくことが求められます。

区分	意見	事業所名
女性の意識について	○まず各自の意識改革が必要だと思う。男性や社会の理解も重要だが、女性自身の社会における個人としての責任ある認識、また、女性である甘えがあるように思われる。	ヤスキ建設 株式会社
女性の活用について	○女性社員は、家庭との両立を考えることなどから役職者へのチャレンジが消極的になることもあるので、仕事と家庭の両立を支援する体制が必要だと思う。	(株)サカキバラ コーポレーション
	○結婚・出産などライフステージの観点から見て、女性の採用を控えてしまう部分がある。男性の場合はずっと来てもらって、次の代を支えていってもらえる。社内の体制整備が進めば、女性の進出も可能なのかもしれない。	株式会社 大嶽安城
	○会社としては、利益をあげていかないと潰れてしまう。昔の考え方だと男性が頑張ればいいと思っていたが、今は女性の考え方を取り入れて進めて行くのが生き残るための一つの道だと思う。	

(4) 行政に求める支援について

行政に求める支援では、柔軟な働き方を導入するための支援、働き方の見直しに関する啓発や情報提供の充実、また、子育てや介護などの福祉サービスの充実を求める意見が出されています。

区分	意見	事業所名
多様な就労形態の促進	○在宅勤務の検討のため、インフラ整備のための助成金（ASP利用料、Wi-Fi環境の利用料、もしくはサーバーの構築費用など）	サン・シールド株式会社
情報提供	○テレビなどで「イクメン」と聞くことは増えたので、身近な市も含めて、情報にふれる機会が多くなると良い。	(株)サカキバラコーポレーション
	○ワーク・ライフ・バランスも、一般的に提示される生活のイメージと、製造業の現場ではかけ離れてしまっている。身近にわかりやすい、イメージしやすい啓発や情報があると良い。	(株)サカキバラコーポレーション
子育て支援サービスの充実	○産休中の社員から、子どもの保育所が見つかるか不安であるとの声を聴く。	(株)サカキバラコーポレーション
	○女性の場合、保育園などの育児環境の整備が行われれば、子どもが病気になったときも安心して預けられるようになる。このようなことは非常に効果があると思う。	株式会社大嶽安城
介護に関する意識づくり	○介護に関して、自分の親や相手の親の面倒を自動的に女性が見るといった雰囲気がある。それが防げるような、安心して働けるような環境にしてもらえればと思う	株式会社大嶽安城
介護サービスの充実	○家族全員で交代しながら介護をし、大変な社員がいたので、介護施設等の充実を望みたい。	(株)サカキバラコーポレーション